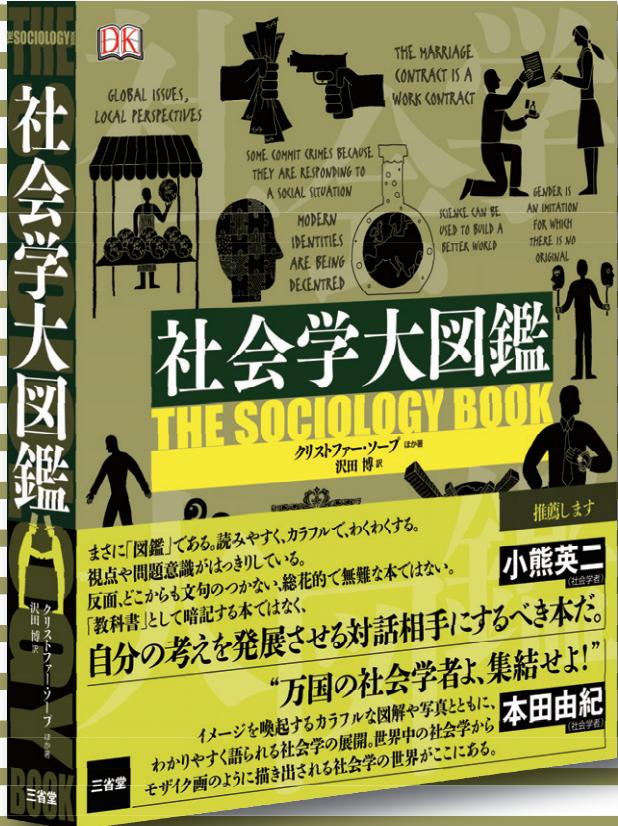


社会の不平等、都市と共同体、グローバル化、
文化とアイデンティティ、消費と労働、制度、家族とセクシュアリティ。

自分たちの生きる社会を見つめ直したい人に贈る オールカラーの図解入り大図鑑



権力あるところに抵抗あり
(ミシェル・フーコー) (p.52)

オリエントとは、すべての東洋
が閉じ込められた舞台だ
(エドワード・サイド) (p.80)

私たちは制御不能な世界に
生きている (ウルリッヒ・ベック) (p.156)

クィア理論はアイデン
ティティを根本から問い直す
(スティーブン・サイドマン) (p.326)

B5変型判 352ページ 定価(本体4,200円+税)

目次より抜粋

社会学の成り立ち

- 心で破れたら国は滅びる(イブン・ハルドゥーン)
- 合理性という名の檻(マックス・ウェーバー)

この社会が不平等を生み出す

- 私はブルジョアジーを社会的殺人の罪で強く
非難する(フリードリッヒ・エンゲルス)
- ユニオンジャックに黒はない(ポール・ギルローイ)

群れから村へ、そして都市のディストピアへ

- 路上には人々の目が必要だ
(ジェイン・ジェイコブズ)
- ディズニー化でありふれた退屈が劇的な体験に
変わる(アラン・ブライマン)

グローバル化した世界に暮らすということ

- すべてが流動化した時代に確固とした全体性
などありえない(ジグムント・バウマン)
- 社会によって近代の受容方法は異なる
(アルジュン・アバデュライ)

文化と秩序と私たちのアイデンティティ

- 未来の人間はロボットになってしまう
(エーリッヒ・フロム)
- あらゆる共同体は想像の産物だ(ベネディクト・アンダーソン)

万国の労働者よ、さっさと消費に励め!

- 機械が洗練されればされるほど労働者の技能は衰
えていく(ハリー・ブレイバーマン)
- 人がモノを作るのと同様にモノは人を作る
(ダニエル・ミラー)

この社会の諸制度は有益なのか有害なのか

- 宗教は抑圧された人々の深い溜め息だ
(カール・マルクス)
- 経済危機は直ちに社会の危機に転化する
(ユルゲン・ハーバーマス)

家族とは何か、性的なアイデンティティとは?

- 男と女の違いを生み出すのは文化だ
(マーガレット・ミード)
- 家事労働は自己実現につながらない
(アン・オークレー)

THE
SOCILOGY
BOOK

社会学大図鑑

クリストファー・ソープ
訳
澤田博
三省堂

三省堂



啓

蒙思想と産業革命の技術革新から生まれた近代は、繁榮だけでなく公正な社会の到来を約束した。少なくともヨーロッパでは君主や貴族、教会の絶対的な権威が否定され、旧来の思想信条は台頭する合理的な思考や科学的思考によって代わられた。また技術革新は新たな不平等をもたらしてしまった。新たな産業が生まれ、富が増加し、働く人々の生活も改善されるという希望が生まれた。

階級意識
しかし、現実の近代的な工業社会は

もなれば少なからぬ人々が、この進歩に伴う代價は重く、そのバラ色の約束の多くは果たされないことに気づいた。公正、公平な社会どころか、近代社会は新たな不平等をもたらしていた。

マックス・ウェーバーが、近代社会では経済的な富と社会的地位、政治的な富による3つの階層があると指摘した。

アメリカで公民法が成立。人種や肌の色、宗教、性別、国籍などを理由とする差別を禁じた。

その後の社会学者たちは階級間の不平等を認めつつも、階級（階層）は経済的なものだけではないと考えた。たとえばマックス・ウェーバーは、経済力に加えて社会的地位や政治的立場による階級化も想定した。階級の存在と階級意識の問題は、その後も社会的不平等に関する研究で重要な位置を占め、ピ埃尔・ブルデューの「ハビトゥス」のような概念をもたらした。

人種・民族による差別と抑圧
エンゲルスはカール・マルクスとともに、資本家ばかりが潤す資本主義が労働者を抑圧していると論じた。

マルクスとエンゲルスは、近代社会の抱える問題を物質的・経済的側面から捉え、労働者階級（プロレタリアート）と資本家階級（ブルジョアジー）

たとえばハリエット・マルティノは、「にも根強く残り、今日に至っている。W・E・B・デュボイスをはじめとする社会学者はヨーロッパ系白人の耳半耳の歴史をもとに人種と社会の不平等の関係に注目した。その流れは、黒人とゲット（階級された貧民街）の関係を研究したイライザ・アンダーソン、西洋による「アーヴィング東洋」観を形成したエドワード・サイド、近現代文化社会においていかに人種差別を撲滅するかを探求したポール・ギルロイらに受け継がれている。

ジェンダーの平等を求めて

たが、家父長制的な社会において今もさまざまな差別を受けている。「第1波」のフェミニズムは100年以上かけて女性参政権の獲得に成功したが、第二次世界大戦の第2波フェミニズムはジェンダーにもとづく差別・不公正が現代社会に深く根を張っている事実を暴き、その克服の道を探ってきた。シルヴィア・ウォルビーは、女性を抑圧し続けている経済的・政治的な要因を単に追究するのではなく、社会の家父長制的構造を維持している社会制度の包括的な分析を試みた。一方、R・W・コンネルは「男らしさ」に関する固定観念や社会的規範が家父長



近代世界システム イマニユエル・ウォーラースtein (1930年～)

テーマをめぐる背景知識を年表の形で整理

背景知識

テーマ

世界システム論

歴史に学ぶ

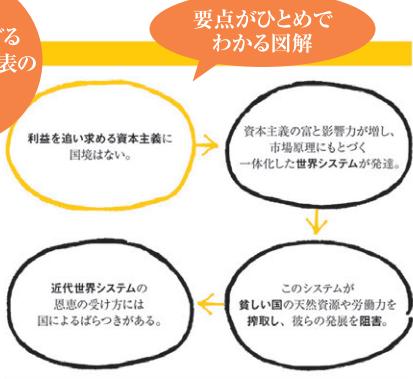
16世紀 欧州列強がアメリカ大陸やアジア一部地域を「発見」し、植民地化したことで、グローバル資本主義の基礎が築かれた。

1750年 イギリスで産業革命が始動。

1815～1914年 新産業や、社会、経済改革が欧米と日本、そしてオーストラリアなどに広がった。これらの地域の国々が近代経済システムの「中核」をなした。

1867年 カール・マルクスが資本主義の搾取の構図に焦点を当てる「資本論」第1巻を出版。

20世紀以降 グローバル貿易が旧植民地などをグローバル資本主義の「システム」に統合しながら発展。



世 界中の国々が相互につながっている世界経済システムでは、先進国が開拓途上国の天然資源や労働力を搾取している。アメリカの社会学者イマニユエル・ウォーラースteinは「近代世界システム」(1974年)で、そう指摘した。この「世界システム」は、貧しい国が発展を阻害し、富める国が世界中の天

関連項目へのリンク

参照 カール・マルクス 28-31 ■ ローランド・ロバートソン 146-47 ■ サム・ハーリー 14-65 ■ アルジュン・アバデュライ 166-69 ■ デヴィッド・ヘルド 170-71

に再投資された。19世紀後半までは、世界の大半の地域がこの商品生産・交換システムに組み込まれた。

国際舞台

近代資本主義の起源に関するウォーラースteinの理論は、カール・マルクスの理論の舞台を世界に移したものだ。マルクスは資本主義のもたらす「剰余価値」をめぐる闘争に焦点を当てた。労働者は賃金以上の価値を生み出しが、この剰余価値は雇い主の利益になる。労働者階級が生み出した剰余価値は(本人の手には渡らず)裕福なエリート層にもついていかれてしまふ。

この構図を、ウォーラースteinは世界に当てはめ、商品の生産・流通システムの受益者に焦点を当てた。世界システムにも国々の間に、国内で階級のようなグループが存在する。それはそれのグループを「中核国」「周辺国」「周辺国」と名づけた。中核国を構成するのは先進国で、高度な技術が必要な複雑な製品を生産する。中核国は天然資源や農産物、安い労働力をもつ。

社会学者のプロフィールや、テーマに関わる追加情報のコラム

富と不平等のグローバルな構図

かつて社会学者たちは国際間の不平等を論じるときに「第一世界」(先進米国)、「第二世界」(共産主義中国)、「第三世界」(旧植民地)といふ言葉を使っていた。国家は資本主義や工業化や都市化の進み具合でランク付けされ、貧しい国が貧困から抜け出すためには先進国の経済的な特徴を備える必要があるというような議論がなされていた。

こうした第三世界の国々は単に開發が

グローバル化した世界に暮らすということ 145

見やすいカラー図版



「周辺国」の経済基盤は農業・商業に限られ、弱い立場に置かれていた。周辺国と中核国に貿易や原材料などの一次産品や安い労働力を提供する。

■「周辺国」は貧乏さにおいても社会・経済的な状況においても周辺国と中核国に位置する。

■「中核国」は先進工業国で、近代世界システムの中心となって支配する。

周辺国を「周辺国」と名づけた。中核国を構成するのは先進国で、高度な技術が必要な複雑な製品を生産する。中核国は天然資源や農産物、安い労働力をもつ。

この世界システムは比較的の安定して簡単に変わらない。グレーブ

立ち位置が変わる可能性は低い。

周辺国が中核国に昇格したとしても、中核国には軍事力と経済力があるため、世界全体が平等な関係に再編成される可能性は低い。

ウォーラースteinの近代世界システム論が確立したのは1970年代。グローバル化という言葉が一般化するよりも前にこのことだ。社会学は1980年代末から1990年代初頭になってようやくグローバル化を重要なテーマとして扱うようになった。そのためウォーラースteinは、経済のグローバル化やその社会政治的な影響について早い時期から取り組み、しかも多大な貢献があったと評価されている。

三省堂 〒101-8371 東京都千代田区神田三崎町2-22-14 ☎ 03(3230)9411(編集)・9412(営業) <http://www.sanseido.co.jp/>

NEW 社会学大図鑑

ISBN 978-4-385-16237-9
定価(本体4,200円+税)

お名前

お電話番号

ご住所

貴店名・帖合先

冊